

群馬県支部

群馬県内温泉地、旅館協同組合の活性化対策の現状

1. 調査・研究の目的と概要

群馬県支部の平成16年マスターセンター補助事業は、群馬県の主要な産業である観光業にスポットを当て、「群馬県内温泉地、旅館協同組合の活性化対策の現状」を実施した。県内の7温泉地旅館協同組合を対象とし、県産業経済局観光物産課等の協力も得て、約7か月をかけて調査・研究を実施した。

2. 調査・研究の項目内容と結果

(1) 組合の分類から組合活動まで14項目にわたりアンケート、聞き取りにより調査した。

組織化では、四万温泉が100%の加盟であるが、民宿やペンションは現在の組合活動にメリットがないと考えていて、その比率が高い温泉地では組織率は低い。組合活動は入込み客数を維持している草津、四万等はきわめて活発である。イベントは観光協会との共催が多かった。共同購入や転貸融資は予想外に少なかった。

(2) 近年の旅行形態が集団から個人、単なる見物から自己の旅行テーマ設定と変化しつつあるなかで、宿泊客のニーズも変化している。低価格化、湯治ブームによる泉質の追求、温泉街の雰囲気、近隣の観光資源、温かいもてなし、等が挙げられる。反面、パワーシルバーと呼ばれる高級志向を持った宿泊客も増えている。

(3) 大規模旅館を有する温泉地では、旅館内売店・娯楽室での宿泊客の囲い込みがあり、温泉街や地域との連携が少ない。草津の「歩きたくなる観光地づくり」、四万の「よってんべえ運動」は温泉街・地域住民との連携を強めている。伊香保では「品質向上運動」が始まり、街づくりへの期待がかかる。

(4) どの組合も資金不足に悩まされており、行政の補助金は活動に欠かせない。観光協会との協力も広告宣伝やイベント実施に当たり、重要な要素である。

3. 組合活動活性化への提言

以下の項目にわたり具体的な提言を行った。

(1) 組合員満足のために： 組合の機能強化、 広告・宣伝について

(2) お客様満足のために： ニーズ変化への対応、 独自の街づくり

(3) 地域のために： 温泉地コンセプトの確立、 地産地消の推進、 歩きたくなる温泉街づくり、 手作りイベント、 国際化への対応

温泉地を訪れる観光客のニーズが大きく変化するなか、温泉旅館の繁栄は温泉地の繁栄と切っても切れない関係にある。旅館の魅力と温泉地の魅力を高め、温泉地のブランドを確立するために、温泉旅館協同組合の活動活性化はますます重要となっている。